

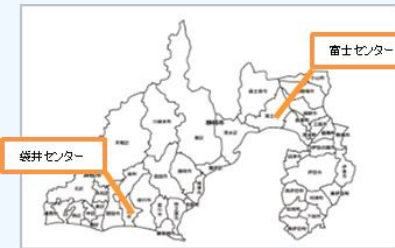


すすめたい事業

■2022年度上期 受注高■



- ・予算に対し約6,900万円未達成、前年を約7,400万円上回り終了しました。
- ・一人当たり利用金額は、利用点数含め、予算前年とも同水準を維持しましたが、商品値上げの影響により、8月、9月と前年を下回りました。



■拡大業務■

- ・大幅な体制変更を実施、拡大業務の内製化が進みました。
- ・戸別加入削減や営業職員モチベーション維持等に取り組み、新たな研修／表彰制度、夏期休暇取得奨励等の改革が進みました。



営業職員向け上期表彰式

■配送コースの収益状況■



- ・配送コース別損益状況の把握が進み、配送センター別の課題が明らかとなりました。

これら課題は「センター損益改善タスク(仮称)」を下期より運用、対策を検討します。

■電力事業の現状と今後■

- ・新電力事業は、電力市場価格の高騰により、4月より新規契約受付停止と、7月より低圧組合員価格の値上げを実施しました。

- ・現在までの脱炭素への移行に伴う化石燃料価格の高騰に加え、ウクライナ情勢によるエネルギー危機の長期化、急速な円安により先行き不透明となり、市場価格高騰が進んでいます。以上の理由により、料金の更なる改定を進めます。

■組合員拡大、脱退■



- ・職員の欠員補充が進まず、予算に対し90名の未達で終了しました。
- ・営業のみに限らず人手不足は深刻な状況となっており、今までにない対策が求められています。



- ・組合員脱退は前年並みとなりました。
- ・利用継続に難のあった営業委託の廃止に加え、口座登録、オンラインパル登録、初期商品セット利用の推進等、利用継続につながる取り組みが功を奏しました。
- ・取り組みの効果が第二四半期より現れ、7～9月はいずれも前年を下回る実績となりました。

ひろげたい活動

■ばる活動■ 登録目標人数90名

登録人数 **76名** (予算比84.4%)

オンライン学習チーム
18名
(前年比 150.0%)

オンライン企画を13企画
ご案内、合計18名が参加
しました。

商品モニターチーム
49名
(前年比 233.3%)

毎月1回商品をご案内、上
期は5商品、合計153名が
参加しました。

商品開発チーム
9名
(前年比 90.0%)

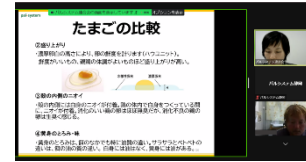
毎月1回定例会開催、フィル
ターレスコーヒードリッパー
の開発を進めています。

昨年スタートした「ばる活動」への登録および参加増に取り組み、登録数は76名に留まりましたが、稼働率は目標の80%を超過、80.3%と順調に推移しました。



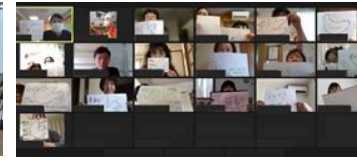
■テーマ活動■ 理事による「テーマ活動」は、新型コロナ感染拡大で活動が制限される中、ウィズコロナ視点での活発な組合員活動が展開されました。

*食・産直テーマ企画/環境テーマ企画



たまごの学習会/伊豆鶏業、気候変動学習会/山形天童果実同志会、グノム編集学習会/プラムフィールド/クジラの9ちゃん(※プラスチック削減をテーマにした人形劇)/ナチュラル洗浄剤の使い方講座 等

*福祉テーマ企画/平和テーマ企画



オンラインによる丸木美術館反戦平和企画/ハンガーフリーワールド回収品の仕分贈呈/防災リュック作り/県連と連携したフードバンク仕分け/けん玉健康企画等

■生活困窮者支援■

生活困窮者支援として、パルシステムグループ「予備青果」を活用した食品寄贈を合計700kg支援しました。



・NPO法人青少年就労支援ネットワーク 静岡へ毎月一回の定期寄贈 合計6回合計600kg (前年比200.0%)支援
・8月シングルペアレント101へ予備青果 寄贈合計100kg支援



NPO法人POPOLOがおこなう島田市受託事業「しまだ夏休み子ども食糧支援事業」へ産直小麦のホットケーキミックスを340個を寄贈しました。

7/24(日)「ひとり親家庭向け食料配付会&相談会」

7/28(木)「産直小麦のホットケーキミックス寄贈」

■活動ガイドライン■

5月より組合員活動ガイドラインの検討を開始、策定に向けた論議を進行中。

■環境方針■

環境方針作成に向けたタスクチームを立ち上げ、策定に向けた論議を進行中。

2023年2月完成に向けて検討作業を進めます。

■パルシステム奨学金■

今年度「パルシステム給付型奨学金制度」の給付対象者は1名(グループ全体12名)となりました。

→2023年度の実施主体として「パルシステム〇〇基金」を生協組織の外部に設けることを想定し検討を進めています。

つくりたい組織

■経常剰余金■

2022年度9月までの経常剰余金は2,955万円と、当初の予算を2,643万円上回り黒字で終了しました。

経常剰余金
2,955万円

予算を約2,643万円のプラスで終了

- ・供給高は予算比97.6%と未達でしたが、事業経費が予算比94.7%で進捗した事とパルシステム連合会からの利用分量割戻金1,130万円が剰余金を底上げしました。
- ・下期からの商品値上げ、水道光熱費の高騰などさらに厳しい損益状況が想定されます。



■内部統制■

- ・内部統制委員会ならびに監査/報告いづれも完了しました。PDCAサイクル含め上期予定通り運用されましたが、内部監査による評価はCと低迷しました。
- ・一連の指摘事項が新しい課題として明らかになりました。
- ・これら指摘事項について下期以降も集中取り組みを実施、改善に努めます。
- ・法令違反、規範抵触等、統制の不十分さからくる重大な事象の発生はありませんでした。

■働きやすい職場づくり■

- ・新しい就業規則の運用を4月よりスタートしました。また、更なる改善を目指し、9月には就業に関する基準類(慶弔見舞、育児・介護休業、通勤手当、転勤者取扱基準)の改正(※制度緩和)を実施しました。



■業務効率化■

- ・主要会議の把握を実施、参加者の最適化や会議目的および内容の重複解消等の見直しを実施しました。
- ・前年4月より開始した「独自研修プログラム」の評価と課題抽出を実施しました。

■全体の下期重要課題■

- ①下期受注予算と年間累計経常剰余予算達成
- ②センター損益改善策立案
- ③営業人員の確保
- ④次年度方針論議および予算編成
- ⑤組合員活動ガイドライン、環境方針および実行計画の作成完了
- ⑥商品展示会の成功